<Press Clipping>
媒体名：　化学工業日報　　掲載日：　2004 年 10 月 18 日（月）
発行元：　化学工業日報社　　部　数：　130,000 部
形　態：　日刊新聞

Grant Thornton
ASG グループ（グラント・ソントン加盟事務所）
〒100-0014　東京都千代田区永田町 2-14-3
赤坂東急ビル 12F
Tel:03-3595-0304　Fax:03-3595-0395

2004年(平成16年) 10月18日(月曜日)

経営／総合

グローバル視点でリスクマネジメントを

ナスバーム米グラント社ＣＥＯが講演

変化する環境　柔軟対応へ

ＥＲＭ構築・整備急げ

重要な経営トップの姿勢

大手会計事務所グループである米グラント・ソントン社のエドワード・ナスバーム最高経営責任者（CEO）はこのほど都内で講演し、リスクマネジメント重要性について語った。ナスバーム氏はこのなかで、リスクがもたらす結果の不確実性は日を追って高まっているとしながら、「規制強化や社会的圧力の増大という環境のなかで、リスク評価とそれにともなうマネジメントシステムの構築は不可欠。経営トップの姿勢がなによりも重要だが、変化する環境に柔軟に対応できるERM（エンタープライズ・リスク・マネジメント）が喫緊の課題となっている」と指摘、グローバルな視点に立ったリスクマネジメントの重要性を強調している。

ナスバーム氏はまず、リスクを誘導する要因として財務、運用、規制、法律そして世評など総合的な視点が必要としながら、米国のみならず世界的に社会的圧力や規制強化そして訴訟社会への移行は避けられないと指摘、「同一の違反行為に対して米国の場合、証券取引委員会（SEC）や司法省など多方面からの取り締まりが強化されている。容赦される余地は極めて少ない」状況が生まれている。

とりわけなかで、重要になるのは「トップの姿勢」、取締役から上級管理職そして部門長にいたるリスク査定の効率的なシステムづくりとともに、社外取締役などの活用も効果的に働くことでは、全社のリスクを集約する責任体系の構築・整備とともに「コミュニケーションと測定及びモニタリングそして継続的改善」が重要な意味を持つという。リスク管理最高責任者（CRO）制を導入するケースも増えている。

リスクの評価基準が明確に定義される一方、「それが全体に伝達、理解そして実践されている」ことが必要となる。

ナスバーム氏はこうしたなかで、事業運営上のリスクマネジメント（ERM）プランが（事業戦略のなかで）整合性を持つことの重要性を指摘、

米国ではマーサ・スチュワート事件などリスク管理の必要性を喚起させるケースが表面化したが、「トップの過ちが企業全体のひどいダメージにつながった。いずれにしても、小さなミスが致命傷となる可能性があることを銘記すべき時期を迎えている」と、リスク管理への対応が企業成長の成否を分ける要因となっていることを強調している。